PRESS RELEASE

研究発表

北海道公立大学法人
札幌医科大学

http://web.sapmed.ac.jp/

報道発表資料の配付日時　　９月　１日（火）１０時００分

胃潰瘍治療薬が難病予防

～抗潰瘍薬であるランソプラゾールによる特発性大腿骨頭壊死症予防の可能性～

＜研究の概要＞

厚生労働省の難治性特定疾患に指定されている特発性大腿骨頭壊死症に含まれるステロイド性大腿骨頭壊死症は大腿骨頭の圧潰を引き起こし、２次性の変形性股関節症を引き起こす疾患であるが、世界的に有効な予防法ならびに非外科的治療法は確立されていない。

札幌医科大学では、独自のステロイド性大腿骨頭壊死症動物モデルを確立し、解析を進めてきた結果、胃潰瘍治療薬などとして用いられるプロトンポンプ阻害剤であるランソプラゾールにステロイド性大腿骨頭壊死症に対する予防効果を確認した。今回、それらの基礎研究の結果から札幌医科大学附属病院消化器・免疫・リウマチ内科にて免疫疾患患者を対象とした自主臨床試験を実施したところ、ステロイド性大腿骨頭壊死症の発生率を５３％から１３％へ減少させることに成功した。さらなる有効性評価を要するが、難治性特定疾患を予防する有用な方法となりうる研究結果と考えられる。

＜研究のポイント＞

・市販後薬剤であるランソプラゾールがステロイド性大腿骨頭壊死症を予防
・すこしでも安心して内科疾患治療に専念できる環境を
・実用化に向け、さらなる有効性評価が必要

＜研究の背景など＞

特発性大腿骨頭壊死症は推定で毎年２０００名あまりの方が発生するとされ、そのうちおよそ１０００名がステロイド治療に起因するものと推定されている。ステロイド性大腿骨頭壊死症は自己免疫疾患や喘息といった炎症性疾患に対するステロイド治療後に多く発生すると報告されているが、有効な予防法ならびに非外科的治療法は確立されていない。

札幌医科大学では、独自のステロイド性大腿骨頭壊死症動物モデルを用いて解析したところ、炎症に対するステロイド治療によって引き起こされる免疫応答が大腿骨頭壊死を発生させる引き金となることを明らかにし、その免疫応答を制御することで大腿骨頭壊死が発生しなくなることをすでに報告している。今回、胃薬であるランソプラゾールにその免疫応答抑制効果を確認したため臨床研究を実施した。

＜研究の意義・今後への期待など＞

今回の研究結果は難治性特定疾患である特発性大腿骨頭壊死症の予防法確立への足掛かりとなり得る。有効性の検証にはさらなる大規模試験が必要であり、他施設、各学会、製薬会社などの協力を得て実施したい。また、これと並行してさらに詳細な発生機序の解明を目指し、基礎、臨床の両面から研究を推進したい。

北海道公立大学法人札幌医科大学　事務局経営企画課広報
TEL:011-611-2111(ext.2165,2217)　FAX:011-611-2237　E-mail: kouhou@sapmed.ac.jp

PRESS RELEASE

北海道公立大学法人
札幌医科大学

http://web.sapmed.ac.jp/

＜学会発表の概要＞

題名：①特発性大腿骨頭壊死症の発生予防法の検討
　　②ランソプラゾールによる特発性大腿骨頭壊死症予防

演者：岡﨑俊一郎 1,2)，名越　智 1),山本元久 3)，高橋裕樹 3),山下敏彦 4)ら.

所属：札幌医科大学　生体工学・運動器治療開発講座 1),法医学講座 2),
　　消化器・免疫・リウマチ内科学講座 3),整形外科学講座 4)

発表予定：第 42 回日本股関節学会学術集会　2015 年 10 月 30 日

会場：グランフロント大阪

＜特発性大腿骨頭壊死症とは＞

体幹と下肢をつなぐ股関節を構成する大腿骨頭が壊死してしまう難病。特発性大腿骨頭壊死症はその誘因により、ステロイド性、アルコール性、それ以外の狭義の特発性に分類されている。患者数は全国でおよそ 11000 人、年間新規患者数はおよそ 2000 人と報告されている。厚生労働省の調査研究班が中心となった長年にわたる研究により、世界有数の研究成果が本邦から報告されている。

＜本件に関するお問い合わせ先＞

所属・職・氏名：札幌医科大学医学部法医学講座兼生体工学運動器治療開発講座　講師　岡﨑俊一郎
TEL：011-611-2111 (内 2759)
FAX：011-611-3935
E-メール：oka@sapmed.ac.jp